

【記者からの質問】

<SAGA2024 国スポ・全障スポについて（その1）>

佐賀新聞／国スポの新しい取り組みへの手応えは？

知事／ナイトゲームの開催に不安を感じていたが、盛り上がった。スポーツクライミングは、夜にクライミングする姿がかっこよかった。観るスポーツとしても価値があった。

これまでの表彰は県単位。メダルを授与することで、個人の頑張りを評価することができた。何より3位決定戦が盛り上がり、4位から8位は、有田焼のプレートを授与した。選手の頑張りを考えると、こちらもそれぐらいの準備をして称えるのは大切だ。

佐賀新聞／今後、佐賀県が発展するために、スポーツの力をどう活かすのか。

知事／SSP構想を前に進めていく。「する・観る・支える」と「育てる・稼ぐ」という輪に、どれほど県民が入ってくれるかによる。

ひとつの好例に、佐賀バルナーズが、あれほど集客できるようになったことがある。エンターテインメントにお金を払うという文化が誕生した。お金が回ることで、多くのアスリートが集まり、SSPが強化され、コンテンツがよくなる。

SAGAアリーナは、グッドデザイン賞をいただくほど評価も高い。県民の誇りになり、佐賀での暮らしがより楽しくなる光が見えたSAGA2024だった。

佐賀新聞／来年以降、天皇杯の目標順位は？

知事／これまでの国体では、順位の発表が8位までだったが、今回は16位まで発表した。それは、来年、佐賀県がその中に入るため。ちなみに、昨年開催県だった鹿児島は、今年20位。

滋賀県大会の閉会式で、16位以内に入り「佐賀県」と呼ばれることが目標。ただし、予選の九州ブロック大会を勝ち抜かないと出場できない。そこを含め再構築したい。

<情報公開について（その1）>

佐賀新聞／県の審査会から、オスプレイに関するメールの情報公開が不適切だったとの指摘があった。この受け止めと情報開示のあり方への考えを。

知事／情報は、できる限り公開していく。知事就任当初、職員には「情報公開は当たり前、むしろ非公開にするときに報告してほしい」と伝え、そうなっていると思っていた。

今回の件は、私に報告がなかった。このメールは確かに存在する。しかし、公文書に該当しないと担当が判断した。言葉にすると「不存在」という扱い。「不存在」とは、公文書に該当しないということ。条例の下にある規則や規定のメール運用に、組織的メールは公文書だが、個人アドレスはそうではないと。しかし、情報の扱いとしてふさわしくないと感じるので、是正を指示した。今後、見直しが図られる。

審査会からの答申に、私も異存はない。不存在決定を取り消し、改めて対象公文書を特定し、開示決定等の採決を行った。現在、担当部局でこの採決に従って、改めて対象公文書としての特定を進めている。

<衆院選について>

佐賀新聞／佐賀県は、国政課題をたくさん抱えている。佐賀県選出の国会議員に対する考えを聞きたい。

知事／選挙中なので、具体論は控える。佐賀県としての目線、これまでの県民の思いを踏まえた上で、政策的な発言や提言をしてほしい。

<情報公開について（その2）>

毎日新聞／個人のメールアドレスを使用していたから公文書に該当しないと判断したのか。

知事／佐賀県の規則に、個人アドレスのメールは公文書ではないと誤解するような記載がある。アドレスがどうであれ、条例の趣旨に従って、公開すべきものがある。個人的には、そのような規定にすべきだと思う。だから、見直しを指示した。

毎日新聞／いつ指示を出したのか。

知事／答申を受ける前、記事を見たとき。私が知事になる前から存在するこの規定に違和感をもった。見直すべきものだと思う。

<SAGA2024 国スポ・全障スポについて（その2）>

読売新聞／メダルの内訳とメダルに関する結果を教えてほしい。

知事／佐賀県の金は42、銀が27、銅は21。同じ優勝でも、団体競技は1個だが個人競技は種目が違くと2個、3個と獲得できる。全体として頑張ったと捉えてほしい。

冬季の結果を除けば、東京都より点数で上回った。本当に、よく頑張ったと思う。他県のメダル数の結果は、後ほど担当から報告する。

<「佐賀を支える介護人材を育てています」について>

読売新聞／介護に関する施策は、県内の高齢化が進んでいるからか。あるいは、担い手不足だからか。

知事／両方です。佐賀県の高齢化率は、九州で2番目に低い。率は低いが、数は間違いなく増える。日本全体の課題でもある。人口は減り、介護人材はますます必要になる。しかし、人材は思うように増えないので、国が介護報酬を増やしたり、処遇改善を図っている。

県内では、多文化共生で外国人の介護人材が増加。資格を取り、給料が上がるよう日

本語の習得を支援しているし、ロボットも導入している。総合的な政策を進め、介護の現場が温かい職場になり、就業率が高くなる環境をつくりたい。

<国スポ見直しについて>

朝日新聞／大会期間中に他県の知事と意見交換をした状況と、この大会が今後の議論にどうつながるとお考えかを聞きたい。

知事／図らずも、国スポ見直し論がある中で国スポを迎え、関係者が注目した大会になった。見直し委員会の小林委員長、渡邊委員などが佐賀入りされた。開会式や SAGA アリーナの視察、SSP構想を説明する中で、気持ちを共有できたと実感した。

国スポを負担と考えるのか、佐賀県のように投資と捉え、機会を最大限に活かすことができるかどうか。大会を見た皆さん方は、スポーツには力があると感じ、そこは共有できた。見直し論議があったから、スポーツの力を再認識できた。

<「多文化共生でみんなが輝く佐賀県へ」について（その1）>

佐賀新聞／相談窓口に関する財源を減らす国の考え方への所感を。

知事／なかなか話しにくい。国が、どのような方向性を持っていくのか。今後、間違いなく外国人は増える。人材不足に対する戦略、全体的な思想や骨太の考え方が必要だ。時代とともに政治家が、骨太の議論を交わし、大きな方針の下で説明責任を果たし、前に進んでほしい。

日経新聞／外国人を受け入れる側の教育や、支える仕組みが施策の中に入っているのか。知事／多文化共生社会を実現するには、受け入れる側の意識も大事。外国人を一時的な労働力とみるのか、人材とみるのかで大きく違う。会社を支える人材として、環境を整えサポートもする社会をつくれるかは、受け手次第。それらも含め取り組んでいく。

<魅力度ランキングについて>

朝日新聞／今年度の都道府県魅力度ランキングで、佐賀県は最下位。受け止めを。

知事／特に、意識していない。

<「多文化共生でみんなが輝く佐賀県へ」について（その2）>

時事通信／移住する外国人の家族や子どもの就学、生活支援への考えや取り組みを。

知事／まだ、過渡期。夜間中学への入学も歓迎している。家族が日本になじめないと、様々な問題が生じてくる。市町でも体制づくりを複合的に取り組んでいる。

また、日本人がやさしい日本語を使うことも大事。22か国語で24時間体制の相談窓口に寄せられる声を拾って、優しい社会にしたい。皆さんからの提言もいただきたい。

<SAGA2024 国スポ・全障スポについて（その3）>

NHK／施設づくりや運営で、他県の知事と共有したことは？

知事／施設に関しては、滋賀県、青森県、宮崎県には、もう間に合わない。ソフトで工夫したことの1つに、開会式で選手に椅子を用意した。国体を視察した際、選手が開会式でずっと立って、そのあと試合がある現状をなんとかしたいと思った。フィールドに椅子を並べると、そこで演舞はできない。だから、トラックを使うよう工夫した。

陸上関係者からは、スタジアムに屋根をつけてほしいと要望があったが、アリーナ建設を優先した。アリーナは、そのあとも有効利用できるようエンターテインメント型にした。1つの試合を観る。観ることに価値がある施設整備。こういったハード面は、県民や議会の意向もあるので、後催県に継承していくのは難しい。各自治体が工夫すること。同じことをする必要はないし、失敗があってもいい。佐賀県が失敗したことを、みなさんが改善すればいいことだと伝えた。

スポーツの力を信じて挑戦し、失敗を許容する環境をつくる。スポーツと同じで、努力してもうまくいかないこともある。それは、人生にも通じる。そんな気持ちでスポーツと向き合えばいいと思う。